

信越化学工業株式会社

2024年3月期第3四半期 決算説明電話会議要旨

| | |
|--------|---|
| 日時 | 2024年1月26日（金） 16:00 - 17:00 |
| 開催場所 | 信越化学工業（株） |
| 会社側出席者 | ・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二 |
| 参考資料 | 2024年3月期第3四半期 決算短信 |

* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- 2024年3月期第3四半期（10-12月期）
連結売上高：6,275億円（前年同期比 17%減）
営業利益：1,776億円（前年同期比 35%減）
経常利益：1,882億円（前年同期比 29%減）
純利益：1,050億円（前年同期比 44%減）
- 光材料事業の再構築費用（151億円）を特別損失として計上。中国におけるプリフォーム需要の減退を踏まえた。
- 磁性材料に関して在庫の評価減で約130億円、機能材料においてシリコンに係る在庫の評価減で約50億円を営業利益段階で計上。
- これらの評価減を除くと、電子材料と機能材料両セグメントの10-12月の営業利益は7-9月並み。また、それらを織り込んだ上で、純利益の第3四半期累計の予想値に対する進捗率は78%。

[セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】：
北米国内の塩ビ需要について、3ヶ月前に2023年は季節性がなくなったように見えると申し上げた。実際、昨年12月の月間数量の振れは2020年以降最も少なかった。今月の国内販売は年の出だしとして良好。今年は春需があると見ており、値上げも打ち出した。一戸建ての住宅建設許可件数が増えており、良い傾向。実際、家を初めて持とうとする人たち向けの住宅の建設は進んでおり、住宅ローンの負担軽減の提案も積極的になされている。全米住宅建設業者協会によれば、先週時点で住宅建設業者の向こう半年の見通しはかなり上向いている。アジア地域では、やはり中国の内需の弱さに市況が引きずら

れがちだが、ここでも値段の修正に取り組んでいる。ソーダの市況は 10-12 月に上向いた。ソーダ、塩ビともに価格に注力する。シンテックの新增設の進捗に変更はない。

- 【電子材料】：

半導体デバイスの顧客の皆さまの話を聞く限り、長く続いた調整局面からの市場の復調は間近と感じる。チップレット方式、3D パッケージング、GAA (Gate All Around)、裏面電極、縦型トランジスタ等のデバイス構造の発展とそのため貼り合わせ技術の導入があり、半導体デバイスの作り方が多様かつ複雑になってきている。それに伴い、ウエハーに対する要求特性が格段に多様化し、かつ難しくなっている。当社の技術と価値を認めていただく機会と捉えている。ウエハーをはじめとする半導体材料の需要回復と技術進化を挺に、収益の伸張を図る。希土類磁石に対する需要は、車載用が堅調さを保っている一方、他の用途分野で回復の兆しが見えている。全ての製品について、短期的な調整と中長期の基礎需要を分別しながら、能力増強を適切に行い、また品揃えの拡充と高度化を推し進める。

- 【機能材料】：

汎用品の市場は引き続き中国の動向に左右されているが、中国での販売も含めて、当社の強みである機能品・特殊品が伸張した。車載用、パーソナルケアおよびヘルスケア向け、また環境負荷低減製品を伸ばしている。汎用品については、案件ごとに良いものを^{きら}攫っている。

- 【加工・商事・技術サービス】：

当セグメントの収益は本年度四半期ごとに見れば安定的。

- 今年は更なる事業の拡充のため、投資のギアを上げる。具体的には案件・計画ごとに必要に応じて適宜発表する。

【補足説明 (広報部長 福井真二)】

- 2024 年 3 月期の設備投資額は約 3,800 億円、減価償却費は約 2,400 億円の見込み。
- 経常利益の為替感応度は、1 円の変動で US ドルは年間 44 億円、ユーロは年間 3 億円。

【質疑応答】

〈生活環境基盤材料〉

| | |
|---|---|
| Q | シンテックの 10-12 月の業績について |
| A | ・ 10-12 月は 7-9 月に対し経常利益で減益です。主因は定修の費用と定修による販売減であり、これは織り込み済みの内容です。 |
| Q | アメリカ国内の塩ビの価格、需要動向について |
| A | (価格) ・ 春先に向けて値上げを通すべく取り組んでいます。1 月はまだ勝負がついていません。2 月は 3¢/lb の値上げを打ち出していて、3 月も続けて値上げを検討しています。2-3 月で 3¢/lb だけということにはならないと考えています。春需の出具合にもよりますが、ここで値段をきちんと修正していくという強い意志を持って取り組んでいます。 (需要) ・ お客様の在庫と、お客様のさらに先の顧客の在庫が相当減っています。昨年末に比べ在庫を著しく落としたのでその効果もあって 1 月の出だしは大変良く、春需も感じられます。お客様の色々な話を聞いてこのように総括できると考えています。 |
| Q | アメリカの環境保護庁（EPA）の調査について |
| A | ・ 塩ビの中間原料である VCM や EDC に対して、他の化学品と同様に調査を行うべきというのが EPA の考えのようです。当社は毒性などの点において全く問題ないと考えていますので、当局の調査を注視して必要な対応をしていきます。需要面への影響は全くありません。 |

〈電子材料〉

| | |
|---|---|
| Q | 半導体ウエハーの 3Q（10-12 月）の市場動向について |
| A | ・ ウエハーマーケット全体では、前四半期比は横ばいとなりました。300mm ウエハーは伸長しましたが 200mm 以下ウエハーは民生や産業関連の低迷を受け減少しました。 |
| Q | 半導体ウエハーの 4Q（1-3 月）の見通しについて |
| A | ・ 半導体デバイス市場は 300mm 関連で復調の兆しが出始めています。お客様の 300mm ウエハー投入量は上向きつつありますが、ウエハー在庫を多く保有しています。在庫調整の度合いにより 1-3 月の 300mm ウエハー需要は |

| | |
|---|---|
| | 見通しづらい状況です。在庫調整が進展すれば 4-6 月以降の需要増へつながるものとなります。200mm 以下ウエハーは需要が弱く、当分厳しい状況が続くと見えています。 |
| Q | ウエハーの長期的な動向について |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ IC はこの 40 年間を見ると、世界での一人当たりの IC 消費個数は 10 年単位で倍になっています。足元では 40 数個/人となっています。AI が次の半導体の主軸となり、この傾向が継続できるものと期待しており、ウエハー市場も長期的な拡大を見込んでいます。 ・ 先端デバイスのチップサイズ拡大化や、ウエハー貼り合わせ品の開発も合わせ、ウエハー市場にプラスになると期待しています。 |
| Q | 300mm ウエハーの販売単価の見通し |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 300mm ウエハーについては、そのほとんどが長期契約で価格が決まっています。契約価格は、設備投資や原材料値上げ等によるコストアップ分を含みますので上昇の見通しです。 |
| Q | ウエハーの在庫水準について |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ お客さまは 300mm、200mm 以下ともに、かなりのウエハー在庫を保有していますが、現在をピークに在庫調整が進展していくと見えています。 |
| Q | 300mm ウエハーの投資状況について |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 当社はお客さまとの長期契約に基づいて投資を進めていますが、需要が後ろ倒しになっている現状では、設備の立ち上げも遅らせています。 |
| Q | レア・アースマグネットの評価減の背景について |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定供給のための原料確保ということで、これまで相当な量の在庫を持ってきました。一方で原料調達の多様化も積極的に進めてきました。ちょうど今がこの端境期で、ある程度の原料在庫の調整と市況が下がったことを掛け合わせて、今回思い切った処理を行いました。 |
| Q | レア・アースマグネットの用途別の動向について |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 車載用は好調です。HDD 用は底打ちし回復基調が見えてきています。FA やエアコンといったところがまだ調整局面から脱していません。 |
| Q | DRAM 向けの EUV ブランクスについて |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ DRAM 向けの EUV の適用が前倒しで進んでいますので、そこに使用されるブランクスの評価も今お客さまが積極的に行っています。量産に向けて供給をきちんと整えていく作業が始まっています。 |

〈機能材料〉

| | |
|---|--|
| Q | シリコンの評価減の背景について |
| A | ・ タイの拠点での在庫が多めになったと判断し、今の市況に基づき査定した結果です。 |

〈加工・商事・技術サービス〉

| | |
|---|---|
| Q | ウエハーケースの見通しについて |
| A | ・ 小口径（200mm）ウエハーケースの需要が見込みよりも低くなりました。デバイスの製造工程で使われるケースについては、復調の兆しが見えています。 |

〈全 社〉

| | |
|---|---|
| Q | 設備投資の見通しについて |
| A | ・ シンテックの増設は、今立ち上げに向けた最終局面であり、概ね支出は収まっています。半導体については、LTA の履行に合わせて増設していくので、一度に大きく増えるようなことにはなりません。 ・ 投資のギアを上げていきます。まだ申し上げる段階ではありませんが、既に検討している案件が幾つかあり、その内容が決まったところで必要に応じてお話しさせていただきます。 |
| Q | キャッシュの使い方と株主還元について |
| A | ・ 現金が積み上がっていることは十分認識しており、ここ2-3年で自己株の買い取りも実施しました。更なる自己株買い取りも検討しています。 ・ 配当については、長期に安定的にということと配当性向は35%を目途にということを前々から申し上げてきました。方向性は変わりませんが、色々と考えを巡らせていまして、まとまったところでお話しできればと思っています。 |